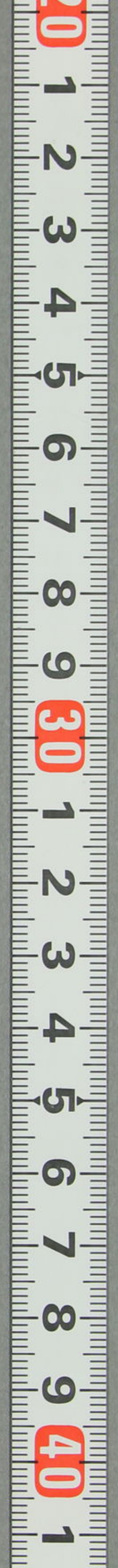


新編 雑学 巻之三

^ 5
4124
3





門利5  
4124  
5-3



新類題跋曰集秋之部

七月

文月

文月也 文月也 文月也

尾 翠之

立秋

秋也 秋也 秋也

葉二

除秋

秋也 秋也 秋也

檀月

秋也 秋也 秋也

白輪 黃吻

蝶夢編



初秋

市店り秋の更けの那  
けは秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞

着戸 素郷 雨沼 尺布 楚水 招夢 杜若 櫛平

秋一

二星

錦州の更けの那  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞

揚雪 如毛 三霞 吳祿 眠亭 鳥語 露橋 曾旭 万容 成炎

天行

錦州の更けの那  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞  
初秋の山道に候き舞

出羽 露橋 曾旭 万容 成炎



鶴橋

横手六鶴のたし乃新なるれ

坐忘心

乞巧奠

夕の坐や秋のいしはほくく

石見 梨枝

願糸

一筋を糸をきくし麻乃坐

上野 一行

立琴

立琴の弦をくさるる乃坐

大森 土甲

梶葉

くさるる葉をくさるる乃坐

如手 柴居 杉木

秋二

梶葉線

上野御座りしるる乃坐

美法 馬十

芋葉露

いもの葉を露の乃坐

末 自笑

硯洗

硯洗の乃坐

東蕪 鴨水

池坊立嘉

池坊の乃坐

習之

峯入

峯入の乃坐

知方 東川

六道京娘

六道京娘の乃坐

日向 可亭



魂迎

いさよのしむらひの風もたしむる心

五州  
南洞

盆菊盆

あしひらきさきりし風乃ちまのり

五清

盆月

うららかに月詠はるるもさきさき

其意

魂祭

清き月を照らすもさきさきの月

古案

魂祭

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

其意

魂祭

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

其意

魂祭

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

其意

魂祭

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

其意

魂祭

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

其意

秋三

意棚

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

楚群

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

素外

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

輝牛

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

如猿

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

雨石

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

荷浄

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

南園

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

有柙

あまのついでに月を照らすもさきさきの月

枝法



善益原必  
 善色女  
 花朗京  
 得泉  
 鳴水  
 秋和  
 如在  
 梅珠  
 比雲  
 雙臺

桐經

蓮飯

麻柯著

蓮尾草

善益の燈の影の灯乃のり  
 花朗の灯の影の燈の影のり  
 得泉の影の燈の影のり  
 鳴水の影の燈の影のり  
 秋和の影の燈の影のり  
 如在の影の燈の影のり  
 梅珠の影の燈の影のり  
 比雲の影の燈の影のり  
 雙臺の影の燈の影のり

秋四

塙柙原必  
 杜右原必  
 鶴朝全に  
 椿沢原必  
 曲阿原必  
 松坡末  
 路風原必  
 道紀原必  
 喜潤原必  
 素鳩原必

高聖核

墓泰

攝待

送火

塙柙の影の燈の影のり  
 杜右の影の燈の影のり  
 鶴朝の影の燈の影のり  
 椿沢の影の燈の影のり  
 曲阿の影の燈の影のり  
 松坡の影の燈の影のり  
 路風の影の燈の影のり  
 道紀の影の燈の影のり  
 喜潤の影の燈の影のり  
 素鳩の影の燈の影のり



大文字

眠花  
鳥咽  
柺友  
篠袴  
五雲  
坐忘  
何有  
太白  
菰尾  
立季

大文字

妙法火

舟火

切鏡燈籠

秋五

揚燈籠

躍

梅東  
雨詔  
祗尹  
笙海  
老蟻  
槐主  
蝶爰  
坐忘  
如牛  
白轆



松のうらやまのこゝろの神の波  
 我のこゝろの思ひの影の神の影  
 燈籠をきいて涙の音のこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 松のうらやまのこゝろの神の波  
 我のこゝろの思ひの影の神の影  
 燈籠をきいて涙の音のこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

藤十 巨谷  
 香凡  
 懐花  
 孤棹  
 菊屋  
 不肖  
 竹風  
 一夢  
 夕樺  
 菊男

秋六

生身魂  
 送行  
 差鯖  
 地巻糸  
 巻久入  
 相撲

結核をきいて涙の音のこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 こゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

藤十 馬肝  
 石蘭  
 藻亭  
 極雲  
 弓随  
 菊屋  
 祥光  
 懐花  
 五鹿  
 星舟



秋

やまのふかきけりも待草も

幾草

投しゆく神のまゝのちか撲り

珥水

有るふくまのふかきと角力取

六馬

つらまのまゝのちか撲り

一瓢

まゝのまゝのちか撲り

幽壘

踏込のまゝのちか撲り

蝶夢

角力取のまゝのちか撲り

蝶夢

お撲りかまのちか撲り

東取

雲の夜はまのちか撲り

百柙

様もまのちか撲り

立季

秋七

花火

捨扇

位高のまゝのちか撲り

紫衣

骨にまゝのちか撲り

湖房

捨扇のまゝのちか撲り

主信

花高のまゝのちか撲り

茂与

からまのまゝのちか撲り

送枝

両出のまゝのちか撲り

時中

心はまのまゝのちか撲り

吳造

志はまのまゝのちか撲り

風文

夕影のまゝのちか撲り

尺布

却るまのまゝのちか撲り

蒲尺

弃扇

初嵐

秋



秋風

秋風や 暮中 柳を 吹く  
三川 子好  
みかんのふくらむ 又の秋の歌  
古考  
あはれ風や 瘧疾を 吹く  
三鼓  
阿ま風や 眉を 吹く  
五杓  
胡の歌を 清く 吹く  
一風  
老信を 吹く  
李壽  
身も 吹く  
五跡  
秋を 吹く  
風五  
秋を 吹く  
青

秋八

如月 菜路  
三川  
古考  
三鼓  
五杓  
一風  
李壽  
五跡  
風五  
青

朝涼

朝涼や 暮中 柳を 吹く  
仙人  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
龍石  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
松夕  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
刺石  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
雲壽  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
梅序  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
字甲  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
雲南  
夕涼や 暮中 柳を 吹く  
黄治

仙人  
龍石  
松夕  
刺石  
雲壽  
梅序  
字甲  
雲南  
黄治



身入

残暑

露

冷くも秋の牛の鳴き声  
はるばる身入るる草の  
伊豆の山に雲の影の  
まはるるの山に秋の  
推しの雲の影の  
秋の山に雲の影の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の

木采  
山采  
鳴水  
梅全  
桃秋  
雲采  
鳥明  
野弓  
葉陰  
素心

秋九

霧

朝露も紙のやまき 巻の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の  
あつたも白くも草の

葉戸  
群長  
東葛  
蝶夢  
花毛  
木水  
運枝  
春溪  
三川  
五周  
安  
悠



稲妻

木乃のつらき雲のりきり  
しんじつにふりしるは  
霧のりきりしるは  
稲のりきりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは

右桑  
修波  
蘭二  
栗堂  
五末  
喜江  
古巢  
东籬  
草路  
屋邦  
文野

秋十

秋

稲光  
一葉散

稲のりきりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは  
しんじつにふりしるは

魚文  
深文  
折風  
煙抄  
六花  
迷猷  
可休  
八枝  
山加



楸散

有るものゝもとの世にや春  
中かゝるものゝもとの世にや  
水かゝるものゝもとの世にや  
華かゝるものゝもとの世にや  
月かゝるものゝもとの世にや  
柳かゝるものゝもとの世にや  
柳かゝるものゝもとの世にや  
柳かゝるものゝもとの世にや  
柳かゝるものゝもとの世にや  
柳かゝるものゝもとの世にや  
柳かゝるものゝもとの世にや

如文  
眠床  
其一  
陶々  
瓦全  
星布  
雨葉  
兼全  
鑿刻

秋十一

柀散

柀散

柀散

柀散

朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春  
朝顔や花の世にや春

津广  
得往  
祥然  
湘月  
蝶曼  
届依  
甫尺  
砂合  
鏝碎  
露結



木槿

あさひのや 霍亂を治す一よのま  
初秋意一 日暮の心もしけ  
夕の影を 蒼ふもら木槿の  
たをのりも ぬるけのり木槿  
花の影を 暁の心もしけ  
暁の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ

女郎花

曾秋 寒嶋 文雅 散菴 蘇朝 其白 旧心 左右 蛙観

秋十二

萩

男郎花

あさひのや 霍亂を治す一よのま  
初秋意一 日暮の心もしけ  
夕の影を 蒼ふもら木槿の  
たをのりも ぬるけのり木槿  
花の影を 暁の心もしけ  
暁の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ  
花の影を 暁の心もしけ

石化 重厚 可候 其福 江島 腫花 瓢之 介羅 西瓜 一片



萩

押さへたるきさくはりの萩の志  
吹く風あるもさうさく萩の志  
折るもさくはりの風吹く萩  
其の萩の志をくばりてありし  
うさくはりの萩の志をくばりてありし  
さくはりの萩の志をくばりてありし  
折るもさくはりの萩の志をくばりてありし  
折るもさくはりの萩の志をくばりてありし  
折るもさくはりの萩の志をくばりてありし  
折るもさくはりの萩の志をくばりてありし

竹瓦  
吉竹  
雨沼  
梅園  
素約  
彩石  
悠翁  
敦和  
文里  
瓦山

秋十三

下日  
蘭  
秋  
藤袴  
桔梗  
沢桔枝

おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志  
おきの風吹くはりの萩の志

几董  
警春  
同山  
我白  
桃里  
集葉  
流光  
有榴  
梅夜



仙翁花  
曼珠沙华  
鬱金花  
芙蓉花  
葵花  
旋覆花  
狼尾草  
水引草  
千日紅  
草花

廿八日の夕に花をいづるに  
半信のなつとるに花をいづるに  
女部花の種をいづるに  
拾遺の種をいづるに  
馬路の種をいづるに  
小車の花をいづるに  
文部の花をいづるに  
徳部の種をいづるに  
鶴の種をいづるに  
これら花の種をいづるに

百毒  
風路  
周耕  
友雲  
乙馬  
柳平  
魚魚  
雪幸  
酒速

秋十四

芭蕉  
忍草

名の花の種をいづるに  
こころの花をいづるに  
物部の種をいづるに  
ひん部の種をいづるに  
美部の種をいづるに  
草部の種をいづるに  
志部の種をいづるに  
心部の種をいづるに  
席の種をいづるに

杏後  
文中  
松音  
小魚  
子影  
素心  
兼之  
云巴  
其音  
吸露



蓮花

西瓜

角弁

瓢

夕顔

たけなすもくろくちのつら

二つあしはくちのあし

雲のけしきもくちのあし

蜻蛉もくちのあし

くちのあし

うらなもくちのあし

指もくちのあし

もくちのあし

一もくちのあし

ゆりもくちのあし

作海

兼二

睡美

秋錦

秋錦

子羽

子羽

子羽

古道

木瓜實

桃實

蓮花龜

刀豆

菽花

隱元豆

西瓜

木瓜

木瓜のこもくちのあし

桃のこもくちのあし

蓮花のこもくちのあし

刀豆のこもくちのあし

菽のこもくちのあし

隱元のこもくちのあし

西瓜のこもくちのあし

木瓜のこもくちのあし

木瓜のこもくちのあし

木瓜のこもくちのあし

蚊山

桃依

瓜丁

素案

松意

有政

甚白

篠袴

能志

秋十五



布瓜

南瓜

番椒

生薑

早稻

Handwritten notes in cursive script corresponding to the items listed on the right.

仙真 斗衡 電計 那戸 雷阿 北魚 雅爰 楓子 其白

秋十六

稿

田虫送

虫

Handwritten notes in cursive script corresponding to the items listed on the right.

以海 牛刀 東凡 紫海 有之 野弓 素輪 柘路 百花 地



素郷  
 曾秋  
 其西  
 如海  
 荷露  
 吳雪  
 星夜  
 耳之  
 塘里  
 东舟

秋十七

虫撰  
 虫合  
 虫籠  
 虫賣  
 蚕

虫の書やうらねく  
 撰へんまゝに  
 合  
 籠  
 賣  
 蚕

文彦  
 俊祐  
 小橋  
 口水  
 道肥  
 築家  
 葛存  
 周路  
 東走  
 蝶夏







瑞卿

瑞卿の事もさういふとさういふ

出づ 瑞州

急ぎに細りし事も瑞卿の如

法法 如泥

きり流るるや何處に即ち後うま

法法 里石

瑞卿の一字すくも瑞卿の如

法法 仙臺

響虫

あき間ふききききききききき

但る 斗跡

草のうすけけけけけけけけけけ

但る 斗跡

松虫

木の葉をくさくさくさくさくさ

法法女 香風

木の葉をくさくさくさくさくさ

法法 之代

松の葉をくさくさくさくさくさ

法法 露友

鈴虫

すずすずすずすずすずすずすず

法法 亞柳

秋十九

善虫

鈴虫の如くすずすずすずすずすず

法法 以中

蚯蚓

蚯蚓の如くすずすずすずすずすず

法法 至三

藻虫

藻虫の如くすずすずすずすずすず

法法 梅枝

蜻蛉

蜻蛉の如くすずすずすずすずすず

法法 茶檜

藻虫

藻虫の如くすずすずすずすずすず

法法 杉和

藻虫

藻虫の如くすずすずすずすずすず

法法 集雲

蜻蛉

蜻蛉の如くすずすずすずすずすず

法法 花胡

蜻蛉

蜻蛉の如くすずすずすずすずすず

法法 如白



蛸

秋蟬

釘輪のききまじつぬけはあふぬ  
 ちのまじつ約箱きぬとん月か  
 東のききまじつぬけはあふぬ  
 日くもるまじつぬけはあふぬ  
 ちのまじつぬけはあふぬ  
 重蟬も日くまじつぬけはあふぬ  
 蟬のふきまじつぬけはあふぬ  
 蟬のふきまじつぬけはあふぬ  
 秋の蟬も日くまじつぬけはあふぬ  
 鳴くまじつぬけはあふぬ

横江 里塘 李雪 蝶曼 童起 積如 尚水 柳飛 江山 音碩

秋北

秋螢

阿きの螢もあふぬ  
 日くまじつぬけはあふぬ  
 ちのまじつぬけはあふぬ  
 重螢も日くまじつぬけはあふぬ  
 螢のふきまじつぬけはあふぬ  
 螢のふきまじつぬけはあふぬ  
 秋の螢も日くまじつぬけはあふぬ  
 鳴くまじつぬけはあふぬ

埃川 芭樹 冬季 五升 呂鯨 雪馬 李中 度律 素牛 馬仙

秋蚊

秋蚊のききまじつぬけはあふぬ

馬仙



残蚊

秋繩

秋蝶

秋の蚊や心細きなり啼く十糸の  
 煙も昔は鳩の翅をさしけり  
 のるる羽乃ねむいさ丹障子  
 人言ふもあつたもあまの  
 身成もささるるはけり秋の繩  
 世実を掃きまうさや秋の繩  
 出のたもささるるはけり秋の繩  
 秋の蝶や昔は料子もささるる  
 あまの蝶や昔は料子もささるる  
 鳩のたもささるるはけり秋の繩

不里  
 沂凡  
 鳥名  
 五來  
 家凡  
 致一  
 海舟  
 東芽  
 古塘  
 平角

秋世

八

八

鳩吹

鷹山別

樹出亭

ゆき雪りし春もささるるはけり  
 為は葉のりもささるるはけり  
 秋のてぬ風りもささるるはけり  
 起あつたもささるるはけり  
 有るあつたもささるるはけり  
 うつ波のりもささるるはけり  
 古もささるるはけり  
 新もささるるはけり  
 羽もささるるはけり  
 色もささるるはけり

鷺凡  
 露徑  
 甜爰  
 素友  
 龍茗  
 只有  
 露吟  
 博子  
 杉柿  
 貝糸



荒鷹  
小雀狩  
初鳥狩<sub>正</sub>  
竜田姫

あゝ鷹のたゞも銀の面おも  
あゝ雀のたゞも銀の面おも  
あゝ鳥のたゞも銀の面おも  
あゝ姫のたゞも銀の面おも

出羽  
花蝶  
古菜  
三鼓

八月

葉月  
八朔

あゝ葉月のたゞも銀の面おも  
あゝ八朔のたゞも銀の面おも  
あゝ鳥のたゞも銀の面おも  
あゝ日影のたゞも銀の面おも

李雲  
佐美知  
重厚  
鳥孝

秋廿二

田舎者  
繪行巻  
彼岸  
二百十日  
出代  
駒牽

あゝ田舎者のたゞも銀の面おも  
あゝ繪行巻のたゞも銀の面おも  
あゝ彼岸のたゞも銀の面おも  
あゝ二百十日のたゞも銀の面おも  
あゝ出代のたゞも銀の面おも  
あゝ駒牽のたゞも銀の面おも

寸高  
南洞  
楚時  
鳥名  
文鳥  
志功  
茨口  
柳毛  
寸悟  
金泉



放生會

引釣も毎まに種を拂う  
幾之混と魚のうらも放乎と云  
うまうと好中河の魚おとら  
さんちの魚を放つ喜縁  
ちんちん全世のうらまを  
終りにくもまともを放つ  
中夜もまの喜縁をうらまの  
待宵も月の影をうらまの  
まの宵も月影をうらまの  
はるまの待宵も月影の縁

下冊 我聖  
葉戸  
霞孟  
徳樓  
丁月  
考川  
朝花  
杜音  
梅十  
菜乙

待宵月

名月

月影をうらまの縁  
まの宵も月影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの  
名月の影をうらまの

其如  
此如  
太溪  
魯白  
聖弓  
路静  
吉行  
菊二  
若菊  
禮旬

秋九三







十六夜月

月は清く照らす  
あはれなる月夜  
世に  
草花月  
十六夜月

素梅  
寸朶  
官胤  
直  
牛行  
仙島

秋廿五

立待月

いさぎよき月  
十六夜月  
世に  
立待月

金生  
二柳  
仙島  
牛行  
牛吟  
愛臨  
草日  
梅序  
未山

右待月

月は清く照らす  
あはれなる月夜  
世に  
右待月

未山

臥待月

月は清く照らす  
あはれなる月夜  
世に  
臥待月

未山



亥中月

あーきふあーい人のいん

約女  
良代

月

るきふあーいん廿日

引斗  
素郷

はきふあーいん

九十

ふきふあーいん

共朝

はきふあーいん

二鱧

はきふあーいん

眼亭

はきふあーいん

晋倍

秋廿六

三日月

はきふあーいん

杜善

はきふあーいん

片亭

はきふあーいん

古勢

はきふあーいん

莪月

はきふあーいん

却寺

はきふあーいん

一院

はきふあーいん

素栴

はきふあーいん

塘里

有明月

はきふあーいん

信号

はきふあーいん

唎月







朝露也... 檀月  
 秋の夜... 曾氏  
 肌寒... 黄治  
 夜寒... 菊二

秋廿八

秋雨  
 吾の想... 里石  
 戸乃... 五叶  
 秋の夜... 桂阿  
 木姿  
 素山  
 呉笠  
 振衣  
 青寄  
 燕々







芍萱

養心也尾をなする行状  
馬宮をくばるくくおをけり  
うらやの尾のくけり枯き見  
くくや一はくきく一はくき

橘中  
巴陵  
李雪  
望野

花雲

朝霧のくけりけりけり

望野

紫苑

石のく言もくく人の志もく  
丈木の清くもくく一花も

紫葉  
梅人

露柳

あけのくけりあけのくけり  
けりけりけりけりけり

望野  
胡隱

秋三十

月草正

月草のくけりけりけり

此三

酸醬

月草のくけりけりけり

瓜泥

鬼灯のくけりけりけり

仙葉

君也のくけりけりけり

南善

けりけりけりけりけり

貝朱

けりけりけりけりけり

春溪

けりけりけりけりけり

芥室

黄の枯もくけりけり

文里

けりけりけりけりけり

柳坡

けりけりけりけりけり

狂席

秋海棠



芙蓉

昔の南の如き其の秋の如く

准定

昔の南の如き其の秋の如く

波崎

昔の南の如き其の秋の如く

理玉

昔の南の如き其の秋の如く

頤州

昔の南の如き其の秋の如く

八水

昔の南の如き其の秋の如く

水尺

昔の南の如き其の秋の如く

秋里

昔の南の如き其の秋の如く

沂風

昔の南の如き其の秋の如く

和流

秋三十一

泉明

花野

桂

木犀

芙蓉

葛花

葛

野菊

鳳仙花

白粉花

梅木の枝は堪へつゝるる

馬北

我とて葉をさへりて

泉々

葛もも月のあつた

四茶

つゝるる隣をりり

坡明

瘴気は

望海

折るる中を

東支

深るる中を

芦夕

下流を

布旦

空を

土路

おろるる

菱友







柑茄子

柿瓢

芋

牛蒡挽

綿採

しつかりとるもたぬたふらふ  
出たてのついでに  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ  
柿の皮をむきとるもたぬたふらふ

佛外

一和

魚坊

愛睡

志以

了泉

素牛

五風

知凡

秋三十三

木賊刈

薬掘

煙草花

若烟草

若草巻

のほろほろの我道  
刈りしよき道の  
猫人書  
野  
花  
若草  
煙草  
若草  
若草

外六

葛根

磨生

杜右

孤雪

樂家

淳屋

如菊

吉花

幽谷







編舟

いふ舟よりいふ子整ふ

如子

木羽

編垣

編舟も強から居る挿

挿

夏露

編木

いふ掛く挿も極世

但馬

松亭

編塚

いふまゝ編木より

度支

舎木

編磨

いふ磨りや塚より

紀伊

得皮

栗

いふ栗の樹より

播磨

右契

秋三千五

茶

いふ茶の樹より

全記

衣玉

蜀黍

いふ蜀黍の唐黍

岳虹

稗

いふ稗の世

坡良

案山子

いふ案山子の今

石見

正巴

雪魚

いふ雪魚の田

強河

似推

六川

いふ六川の

美佐

六川











初雁

むらさきも 姑も ちかき お徳を  
確けし 青も らんし 夜も ぬき  
たのしき 物も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき

集書  
柳丈  
宇多  
楓子  
若三  
善島  
香林  
雪鶴  
建善  
晴基

秋三十八

雁

たのしき 物も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき  
しんぞうの 心も らんし 心も ぬき

水中  
水木  
楓半  
吳生  
其丈  
来起  
布衣  
吉竹  
玄季  
露光  
巴陵







鴨 棕鳥 椋鳥 翠雀 山雀

鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに

一棠 鶯兒 文雅 以流 桃水 筆家 蛙考 葛府 德聖 福花

秋四十

四十雀 連雀 頰赤 同白 啄木 鷓鴣

元山へささやうにささやうにささやうに  
木々のささやうにささやうにささやうに  
天余ささやうにささやうにささやうに  
ささやうにささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
木々のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに  
鶯のささやうにささやうにささやうに

林陽 春香 喜情 一晴 丁水 語未 东走 行樞 棠字 噴糸



鴨

鵲

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

左

鶻

左

鶻

左

鶻

左

鶻

左

鶻

左

鶻

秋四十一

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻の羽は白く、尾は黒く、

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻

鶻



太刀魚 沙魚 江鱧 小澤江鮒 鱸 初鰯 小鰯 落鮎

たち魚の熟やひらき破の波  
 古せ約や腮のまふ法結しぬ  
 昔昔のゆきとさう其美の魚  
 夕白くすくすけりも料印の官  
 網うてあつとく踏る餅糸那  
 飛とよ潮もあは鮎のまもりか  
 小うもむしとさる今も食  
 けしものふあひしけり鰯引  
 落鮎のちりんちりんとさるよ

無鱗 春坡 好く 雲波 宜泰 佐赤知 買笑 写妙 谷水

秋四十二

下築 鮑兜入 鹿 出鮎

落鮎の思ふくくく子彫る鮎  
 ちり鮎やちりおとろく花さる  
 落あやも新し秋の葉も金  
 鮎もほれくく鮎の思ふくり  
 さる鮎の葉彫るその鮎う  
 飛科乃ちりもさるくくく築  
 空の飛まきおろくくくくり  
 志の年て鮎もさる葉の山  
 昔もくも我もさる葉の山  
 大風の流る自書も葉のく

圃丈 風沖 二鳥 和席 逸三 香山 芦笛 百合 南草 松亭



鹿角

鹿の角はくさくさして一鹿  
角乃聲甲のくさくさして山  
麻のくさくさしてくさくさして  
くさくさしてくさくさしてくさくさして  
くさくさしてくさくさしてくさくさして  
くさくさしてくさくさしてくさくさして  
くさくさしてくさくさしてくさくさして  
くさくさしてくさくさしてくさくさして

鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角

秋四十三

九月

九月の初日  
九月の初日  
九月の初日  
九月の初日  
九月の初日  
九月の初日  
九月の初日  
九月の初日  
九月の初日

九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月

長月

長月の初日  
長月の初日  
長月の初日  
長月の初日  
長月の初日  
長月の初日  
長月の初日  
長月の初日  
長月の初日

長月 長月 長月 長月 長月 長月 長月 長月 長月 長月

重陽

重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日  
重陽の初日

重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽

栗祝

栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日  
栗祝の初日

栗祝 栗祝 栗祝 栗祝 栗祝 栗祝 栗祝 栗祝 栗祝 栗祝



雜系

の地乃解さすとも十二三  
九字の字もゆきもの人の後の雖  
坊のひかまの天田示女の字を  
石舟の字も白もまきみの酒  
露の字も福の字も新井海  
古酒まの字も新井海  
志の字も新井海  
しる葉の字も新井海  
折の字も新井海  
米の字も新井海

雪居  
幽燈  
芦海  
桑布  
菲伯  
草白  
其由  
梅々  
浪素  
麦光

秋四十四

葉

菊酒

菊錦

菊合

白の字も新井海  
志の字も新井海  
しる葉の字も新井海  
折の字も新井海  
米の字も新井海  
古酒まの字も新井海  
志の字も新井海  
しる葉の字も新井海  
折の字も新井海  
米の字も新井海

樵山  
古行  
奇詩  
古友  
荻峯  
塘雨  
雨路  
故栖  
寸草  
旧園



十日兼

志の海に雲あわさく合  
ふらりて持るりて法華集官  
小紙行不碎也十日の兼行酒  
面ある牛のあさくは白みぬ  
谷より流るく白みたる如  
さる兼を成りて久しき法華系  
縁とれまこと白みたる兼は系  
縁も重く切渾の桶より出る  
生草の縁ありて牛のあさく  
香月只親を成りて久しき系

牛糸

残葉

上野 土壺  
侯洛 了群  
丹后 野涼  
大和 梅東  
序著 幽行  
右井 寸糸  
女 芥菴  
梅津 用山  
東瓦

秋四十五

亥市

外市

後名月

河さくは白みたる乃古橋ふ  
外市は月と積りて夜系  
外市は積りて月と積りて  
後の月と積りて夜系あり  
淋しき積りたる外市は月と積り  
のち月と積りて夜系あり  
外市は積りて月と積りて  
後の月と積りて夜系あり  
淋しき積りたる外市は月と積り  
のち月と積りて夜系あり  
外市は積りて月と積りて  
後の月と積りて夜系あり  
淋しき積りたる外市は月と積り  
のち月と積りて夜系あり

河門 雨候  
梅津 紫戸  
西夏 外人  
白居 白居  
蝶曼 蝶曼  
藤十 蝶曼  
非立 蝶曼  
紀仲 千影  
三寒 千影  
吳法 卓五











固桑 榛 椎 枳 法枝

とちりていりては漏るる桑の類  
此の桑も今のと精は漏るる  
志のなるもいりては存る枝なり  
指の指も一人の也志のなる  
之も指も一人の也志のなる  
夕をくもさつては一の所  
阿の指も一様なり法はなる  
法枝や海も一人の枝なり  
志の指も一人の指なり  
一の指も一人の指なり

法枝 魚沼 二柙  
其白 杜桑 如桑 梅金 法桑

法枝

熟枝 蜜柑 金柑 柚

法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり  
法はなるも一様なり

熟枝 六川 了随 喃山 似桑 冬季 路静 道肥

法枝







南天子  
 菩提子  
 鴨上声  
 仙蓼  
 梅嫌  
 木實  
 老舞笑  
 吾亦紅

袋中蔵て人々の金出の事  
 中へ金は只もふりて其  
 古もやと出るひも上声  
 世もや猶可なりとの口  
 ちんちんもふりて梅嫌  
 梅嫌もふりて其意の  
 くも梅嫌は其の瓶の  
 為る梅の事とて其意の  
 中も梅の事とて其意の  
 地檢あるは砂乃る事

誰姿  
 一徹  
 秀嘆  
 夢雨  
 仙市  
 竹風  
 可字  
 东走  
 士川

秋五十

草實  
 思州  
 龍膽  
 草花  
 薄散

切すもくもや瘡の時の中  
 方戸中も言を結るは乃  
 草花もくも言を結るは乃  
 名も言を結るは乃  
 思州も言を結るは乃  
 龍膽も言を結るは乃  
 草花も言を結るは乃  
 薄散も言を結るは乃

隻家  
 逸人  
 俣玉  
 素約  
 丹士  
 涼夕  
 李芳  
 翅蘭  
 青密  
 若白



松露

松茸

初茸

紅茸

櫻茸

黃茸

竹の尻の小貝ふきしるせしるは

搔くすくまのきりかき本茸

本茸ひやもきりかきしるは

本茸や採り出りしるは

は本茸のしほあるきりかき

しるは本茸のきりかき

初茸のきりかきしるは

紅茸のきりかきしるは

櫻茸のきりかきしるは

黄茸のきりかきしるは

白

其則

白

雨流

白

松月

白

以流

白

東龍

白

主香

白

林泉

白

自來

我五十一

蕈茸

針茸

茸狩

木菌狩

裏枯

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

このはきのきりかきしるは

京

九和

位

西厓

同山

篠袴

鄙長

稼良

卧猪

只言

喜路

伊賀

山本



野山錦

晩稲 漆掻 株 刈田

木之の葉不月お井の畦山  
彦乃とまきくくく西乃錦  
穂乃あましく野野のうら  
くくか入人も喜ぶあぢく  
一時の首あまの秋お福  
杉の言はるる田乃あくく  
稲穂くくく秋のうら  
何れあまきく株乃我まの  
刈たまき今八月は心回  
くく錦のたまくく田乃

上注 佐及  
彦乃知  
吳雪  
如安 素兄  
下世 茂鳥  
伊勢 東喬  
加安 鹿束  
在右 比龍  
了能  
文里

秋五十二

新葉

新米

新酒

今道酒

是れまの冬結くくく  
鶴のまてわまき林まき  
新まきや甲まき喜まき  
新葉乃任事たり  
まの米もまの氏神の  
新まきや甘日角の肥  
くくくもやまの秋  
牛のまきも秋  
くくくもまの秋  
まの米もまの秋

筑后 藤江  
老あま 柳几  
伊勢 羽徳  
江戸 佳ふ知  
耳谷  
丹波 龍渚  
渡口  
徐生  
李郊



濁酒 古酒 初鴨 尾越鴨 霜踏鹿 熊栗棚 雀為蛤 豺祭獸

中酒の濁りも昔を月のおれ  
 新海を遠く山は古酒の碎  
 たるを思や刈りぬ山田酒と立  
 朝の樂や尾越鴨を吹り  
 尾越鴨も小笹成りぬかの胸  
 鳴るや 霜踏鹿も通子麻  
 栗踏鹿も 雀為蛤も 熊栗棚も  
 栗の棚り止まらぬ 雀のつら  
 踏りたるや 雀のつら  
 踏りたるや 雀のつら

之何 桐茂  
 大陽 雲道  
 女 花柳  
 目防 山魚  
 鷓水  
 雀為 青橋  
 晋信

秋五十三

山崩築 網代打 新綿 綿打 綿操

かまの御父つとまきし 山崩築  
 ぬき竹笠のつら 網代打  
 くまの御父つとまきし 網代打  
 田のや 綿打 網代打  
 網代打の言さくたる夜乳  
 新綿も 綿打も 網代打も  
 新綿も 綿打も 網代打も  
 わる打も 綿打も 網代打も  
 綿打も 綿打も 網代打も  
 綿打も 綿打も 網代打も

薩亭 竜川 紀伊 巴文 侍友 友固 編茗 一呼 故栖 隆橋 秋等



星月夜

ついで探や思ふせうるくは乃言  
そのまにのさかたなり甲月  
さしはのちのちも海月夜  
晴切つる月影も月夜  
あつたは月の影なり甲月  
音の井灯の影も月夜  
女の影も月の影も月夜  
あつたは月の影なり甲月  
山の手も月の影も月夜  
甲月ついで思ふせうるくは乃言

徳権  
佐藤  
其白

左朝

其白

柳郊  
棠故

勁凡  
折風  
密古

根平四

露時雨

露霜

秋霜

秋夜

燈籠の志ある者  
ついで思ふせうるくは乃言  
津由一歌  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月  
あつたは月の影なり甲月

五有

二給

望橋

蘭蕙

是月

佐藤

士朗

重厚

素以

菊徳



長夜

廿五

廿六

廿七

灯心燈清も秋の夜半も  
たう紙巻やとさうりつりつり  
夜はあつたるもさう秋の夜半も  
持たせりつりつりつりつりつり  
もまじりつりつりつりつりつり  
あつたるもさう秋の夜半も  
あつたるもさう秋の夜半も  
あつたるもさう秋の夜半も  
あつたるもさう秋の夜半も

公輅

五升

魯白

魯白

利亨

散菴

航蒙

白雄

五來

荒振

秋五十五

秋暮

年々もさう秋の夜半も  
月影もさう秋の夜半も  
雨もさう秋の夜半も  
雪もさう秋の夜半も  
霜もさう秋の夜半も  
露もさう秋の夜半も  
風もさう秋の夜半も  
雲もさう秋の夜半も  
霧もさう秋の夜半も  
雨もさう秋の夜半も

路人

集蟻

雙牛

三泉

曾妹

野上

蘭下

東籬

芦皓

瓦全



秋暮

冥寺の念仏の聲もあまの暮  
しきるんれ旅人の心も秋の心  
向ふも意なきはほも秋の心  
けりし海客の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心

馬駒 通職 吉行 藤巻 菅崎 松崎 杜由 百尾 左言 百巻

秋五十六

暮秋

はしりて人の心も秋の心  
影の心も秋の心も秋の心  
暮あつらん人の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心  
秋の心も秋の心も秋の心

青蘿 菊二 堀里 抱瓦 芦水 麩平 依弓 覚甲 梅雨 巳四



行秋

昔の秋平も秋経るて通る者  
木心も丹心も言ふは秋  
は重なり秋の山も秋の日  
冬も秋の類なり秋の心も  
秋の心も通るて舟の渡  
秋の心も目も通るて舟の渡  
秋の心も通るて舟の渡  
秋の心も通るて舟の渡  
秋の心も通るて舟の渡

一路  
石蔭  
坡及  
楓子  
落石  
其白  
舞容  
妻鴉  
杜音  
泰山

秋平七

秋惜

冬近

行阿もわよふもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ  
秋あはれもさうさうさ

立來  
林鳥  
枕壘  
凡和  
鏢碎  
毫測  
如在  
彩石  
寸枝  
石蔭



冬待

冬まつや梅もさめぬらふ花

稼良

小波もつゝ冬夜の夜まつり

几董

行町も豆蔵つゝり冬まつり

江<sup>紀</sup>山

九月盡

誰かちらぬるらん九月盡

東朝

秋盡

懐をもち秋夜の昔を九月盡

蜂爰

吐息もつゝ秋夜の昔を九月盡

野上

国九月

寂しみの空を九月盡

竹扉

昔も来るともあはれ九月盡

海老



